



和光大学総合文化研究所年報『東西南北』総目次(本誌1993～2005、別冊01～04) / 関連出版物 / 研究所発足以前の刊行物 / 研究プロジェクトの変遷 / 研究所主催 公開シンポジウム / 研究所主催催し物 / 写真 / 関係諸規程(現行諸規程・参考資料)(和光大学総合文化研究所十年誌 : 1995-2005)(資料と分析)

雑誌名	東西南北
巻	2006
ページ	374-396
発行年	2006-01-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00003377/

●和光大学総合文化研究所年報『東西南北』 総目次（本誌1993～2005、別冊01～04）

東西南北 1993

出版にあたって……学長 杉山康彦

〔文化としての言葉 あなたと私の世界〕に向けて……杉山康彦

【シンポジウム】 開会の辞……杉山康彦

文化としての言葉 あなたと私の世界……鈴木勤介

我と汝の対面の図像を考える……永澤 峻

英語の人称世界……松山幹秀

神戸の叔母さん のはなし 鏡花幼年期回想小説における人称について……塩崎文雄

人称、呼称でみる日本語と朝鮮語のあいだ……劉 孝 鐘

女と男……景山裕子

ディスカッション

【学生論文】 大学生と称詞：アンケート調査とシンポジウムに則して……平澤かおり

【資料篇】 資料 アンケート調査の集計結果とコメント

言葉 [[あなた]] の社会的意味 アンケート結果の分析……鈴木勤介

【編者造言】 編者造言……鈴木勤介

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭 デザイン 柊 光紘

発行人 水上健造 和光大学共同研究機構委員会 発行日 1994年3月

東西南北 1994

【シンポジウム】 あなたと私の世界 PART2 言葉の背景 集団と個人

学長 杉山康彦

開会の辞……水上健造

女の言葉 / 男の言葉……井上輝子

文学と集団 アメリカ文学の成立と変遷……上西哲雄

企業目的と個人目的の統合化をめざして……舩富延久

個人と集団に関わる人権問題……安西文雄

ディスカッション

編者造言……鈴木勤介

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭 デザイン 柊 光紘

発行人 水上健造 和光大学共同研究機構委員会 発行日 1995年3月20日

東西南北 1995

世界のなかの「わたし」と「われわれ」【シンポジウム】

学長あいさつ……杉山康彦

開会の辞……水上健造

「知らないこと」は「必要ないこと」か……ロバート・リケット

小さい存在の「わたし」と「われわれ」……岡本喜裕

含まれる「われわれ」と排除する「わたしたち」……中村忠男

スリランカ高地の農民の世界像……澁谷利雄

ランゲージ・ディフィカルティ.....山田 久

ディスカッション

編者造言.....鈴木勤介

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭 デザイン 柊 光紘

発行人 杉山康彦 和光大学総合文化研究所 発行日 1996年 1月15日

東西南北 1996

和光大学創立三〇周年・和光大学総合文化研究所創設記念 シンポジウム 戦後五〇年を考える

開会のあいさつ.....杉山康彦・学長

part 1 日本の戦争責任と東アジア

日本の戦争責任を考える.....和田春樹

東南アジアからみた戦争責任.....内海愛子

ディスカッション 発言.....原田勝正 / 樋泉克夫 / 三橋 修・司会

part 2 太平洋戦争とマイノリティ

マイノリティから見た戦争責任.....ケビン・内田

マイノリティと戦争の遺産 強制収容所、先住民族、原爆.....マイケル・S・ヤスタケ

戦争責任とマイノリティ アメリカ黒人の戦争観.....ジョン・G・ラッセル

在日朝鮮人と日米戦争 その過去と現在.....鄭嘆恵

ディスカッション 発言.....ロバート・リケット / 劉孝鐘 / 松枝 到 / 篠原睦治・司会

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭 デザイン 柊 光紘

発行人 杉山康彦 和光大学総合文化研究所 発行日 1996年 3月19日

東西南北 1997

シンポジウム ニー世紀に向けて大学のあり方を考える

学長挨拶.....杉山康彦

問題提起 1 大学改革と授業研究 教員の共同研究が切り拓いたもの.....梅原利夫

問題提起 2 地域、社会に開かれた大学とは.....小林文人

問題提起 3 大学の内と外から大学の未来を展望する.....新村洋史

ディスカッション 発言.....梅原利夫 / 小林文人 / 新村洋史 司会 石原静子

シンポジウム 中国の近代化と人間

開会の挨拶.....佐治俊彦

問題提起 1 伝統文化による人権概念.....橋本堯

問題提起 2 改革開放体制下の人口問題.....若林敬子

ディスカッション 発言.....若林敬子 / 橋本 堯 司会 佐治俊彦

香港・YMCA・インド人.....松枝 到

どうなる？家族法改正.....吉岡睦子

「アジアを知ること」と大学教育.....石原静子

計算機統計学の最近の動向 共分散構造分析の理論と応用.....伊藤武彦

十九世紀末研究グループ.....原田勝正 / 橋本 堯 / 田中征男 / 松永 巖

研究会報告

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭 デザイン 柊 光紘

発行人 杉山康彦 和光大学総合文化研究所 発行日 1997年 3月19日

東西南北 1998

シンポジウム 身体表現とジェンダー

開会のあいさつ.....千野榮一

企画の趣旨.....井上輝子

問題提起 1 写真表現のなかでのジェンダー.....笠原美智子

問題提起 2 女性の身体表現を『鍵』に読む.....塩崎文雄

問題提起 3 女性身体へのこだわり 文化規定としての女性身体.....浅野千恵

ディスカッション 発言.....杉本紀子 / 酒寄進一 / 永澤 峻 司会 井上輝子

シンポジウム アジアのなかの教科書裁判

開会のあいさつ.....水上健造

問題提起 1 教科書裁判三二年の争点.....佐藤伸雄

問題提起 2 「朝鮮」と教科書裁判.....林 哲

問題提起 3 中国から見た教科書裁判.....殷燕軍

問題提起 4 教科書裁判と近現代史認識.....永原慶二

ディスカッション 発言.....佐藤伸雄 / 林 哲 / 殷燕軍 / 永原慶二 司会 山村睦夫

ヨーロッパとアジアの交錯 私の仏教学の歩み.....ジャン＝ノエル・ロペール

アジアに羽ばたけトットちゃん 現代子ども労働の一考察.....石原静子

映画はいかにして「物語」から自由になりうるか.....坂尻昌平

和光大学パロースタン学術調査報告.....前田耕作 / 前田龍彦 / 村山和之

和光大学モンゴル学術調査報告 変容するモンゴルの世界.....三橋 修 / 針生一郎 / ユ・ヒョジョン / 松枝 到 / ロバート・リケット / 篠原睦治 / フフバートル ディスカッション 司会 鈴木勁介

研究会報告

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭ほか デザイン 柊 光紘

発行人 水上健造 和光大学総合文化研究所 発行 1998年3月20日

東西南北 1999

シンポジウム 民族紛争の現在 日本から考える

開会のあいさつ.....水上健造

問題提起 1 民族紛争化するグループ対立 アフガニスタンの現状.....山根 聡

問題提起 2 多国間植民地問題としてのクルド紛争.....松枝 到

問題提起 3 旧ユーゴにおける民族紛争の背景.....江川ひかり

ディスカッション 発言.....山根 聡 / 松枝 到 / 江川ひかり 司会 澁谷利雄

論文

こととしての写真 濱谷浩私論.....小関和弘

「満州国」成立後の戦略体制と鉄道建設.....原田勝正

アジアにおける環境問題と多国籍企業.....大石芳裕

芸術学科公開講座 南ウズベキスタンにおける仏教遺跡の考古学的調査.....ドミトリー・ルサーノフ

大学交流 南西アジア文化研究会のパキスタン交流プログラム

和光・パロースタン大学交流史と新学科.....村山和之

美術学科の人びとと パロースタン大学訪問記.....大坪潤子

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 春田正治 / 渡辺千昭ほか デザイン 柊 光紘

発行人 水上健造 和光大学総合文化研究所 発行日 1999年3月20日

東西南北 2000

シンポジウム 二つの世紀末と日本・アジア

開会のあいさつ.....佐治俊彦

問題提起 1 大アジア主義思想から「大東亜共栄圏」論へ.....原田勝正

問題提起 2 日本企業のアジア進出とアジア認識.....山村睦夫

問題提起 3 横浜華僑社会と二つの世紀末.....伊藤泉美

ディスカッション 発言.....姫田光義 / 佐治俊彦 司会 ユ・ヒョジョン

近代中国における日本イメージと日本研究の課題.....孫 歌

権力と支配のためでなく 濱谷浩私論 2.....小関和弘

未来への大学院を目指して 調査報告に基づく提言.....石原静子

アジア研究フォーラム 旧ソ連中央アジア諸国の社会・政治・文化的状況.....ラヴレンティエフ・ソン

南西アジア研究会 インド調査報告.....前田たつひこ

和光大学パロースターン学術調査団 一九九九年調査報告.....村山和之

第3回宮川寅雄記念講座 講演会 最近の発掘から見た東日本.....大塚初重

研究活動報告 一九九八年度

題字 川添修司 画 白石昌夫 写真 渡辺千昭ほか デザイン 柊 光紘

発行人 水上健造 和光大学総合文化研究所 発行日 2000年3月18日

東西南北 2001

シンポジウム イメージと言語

開会の挨拶.....岡本喜裕

宗教とことば.....ジャン＝ノエル・ロベール

神話・イメージ・言語.....松村一男

日本の神々のかたち ひとつの反措置.....山本ひろ子

ディスカッション

特集1 環境と農業・都市

農業と環境問題.....持田恵三

食料・農業と環境との関連に関する概観.....小林弘明

気候にやさしい都市 気候変動にソフトな二八万都市の内容.....三浦郷子

特集2 「少年」の現在

少年犯罪は凶悪化しているか.....奥平康熙

『人生案内』と子どもたち.....池田貞雄

若者ことば 銅メダルとかがった.....天野みどり

シンボル文化研究会 ウォーバーク研究所におけるアラビア科学の研究.....チャールズ・バーネット

「アジアの教育 研究と交流」プロジェクトチーム インドネシアの教育 自立への模索.....石原静子

宗教芸能研究会 対馬の命婦と法者 神楽と祭文の世界.....渡辺伸夫

フェミニズム・ジェンダー研究会 諸大学のジェンダー関連機関視察報告.....井上照子・吉川 信

研究活動報告 1999年度

題字 川添修司 写真 渡辺千昭ほか デザイン 柊 光紘

発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所 発行日 2001年3月19日

東西南北 2002

シンポジウム 東西文化交流と比較神話

開会のあいさつ.....岡本喜裕

日本神話と比較神話.....吉田敦彦

ユーラシアの美術交流 ケルトから見る.....鶴岡真弓

比較神話と文化史 『オデュッセウス』、『ロビンソン・クルーソー』、『ユリシーズ』.....松村一男

ディスカッション

特集 1

調査報告・タイの環境問題 アグロインダストリーをめぐる.....小林弘明 / 高木 要 / 内田正夫 / 三浦郷子

特集 2 多様化の進むモンゴル世界

ブフ（相撲）文化から見るモンゴル世界.....バー・ボルドー

農地化から沙漠化へ 内モンゴル東部「草原」地帯の変容.....ブレンサイン

「飛び地の捨て子」か「新モンゴル人」か 中国雲南のモンゴル族.....ユ・ヒョジョン

ディスカッション

インド、ヒンドゥー寺院における舞踊表現 両性具有の踊り子像に関する考察.....袋井由布子

シンガポールとチベット アジア二つの地域の夢と現実.....石原静子

研究活動報告 2000年度

発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所 発行日 2002年03月20日

東西南北 2003

シンポジウム 食料関連産業と環境 アジアと日本

開会のあいさつ.....岡本喜裕

タイにおける食料関連産業と環境 東北地域の土壌劣化問題をを中心に.....ブンジット・ティタピワタナクン

中国の農村の発展と環境.....銭 小平

貿易と環境 木材とエビの事例を中心に.....小林弘明

ディスカッション

Environment and the Agro-Industrial Sector in Thailand.....Boonjit Titapiwatanakun

特集 モンゴル シャマニズムの世界から

アジアのシャマニズム.....松枝 到

モンゴル帝国時代におけるハーンたちの世界観について.....ソーハン・ゲレルト

モンゴル北部ダルハド盆地のシャマニズム ツァータン・トバの事例.....西村幹也

ディスカッション

ミクロ経済学とマクロ経済学の教育研究.....山田 久

研究活動報告 2001年度

和光大学総合文化研究所『東西南北』の編集に関する申し合わせ事項 『東西南北』および『東西南北・別冊』投稿要領

発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所 発行日 2003年 3月20日

東西南北 2004

シンポジウム エスニック・マイノリティの「教育」から日本の「学校」を考える

戦前・戦後日本における民族教育・民族学校と「国民教育」.....水野直樹

海外日本人学校・補習校の教育にみる「日本人性」について.....佐藤郡衛

日系ブラジル人の子どもと日本の学校文化.....児島 明

ディスカッション

特集 神話的言説の図像表現と解釈

緑のゲオルギオス クロアチアとスロヴェニアの儀礼から.....伊東一郎

死者と生者が結ばれるとき 救済観からみるキリスト教.....嶋内博愛
母なる物語としての「吸血鬼ドラキュラ」あるいは、イメージのファロサントリズムを超えて.....平松 洋
アメリカ合衆国における神話とイメージ.....松村一男
アクロティリ遺跡切石建築3号壁画にみる世界観.....田井淳三郎
ギリシアの地理的擬人像をめぐる断想 島づくしの表現.....篠塚千恵子
『ユトレヒト詩篇』における古代的なイメージ.....鼓みどり
悲しみの身ぶり 仏涅槃図とイエスの死の哀悼図.....細田あや子
墮ちた偶像 ネーデルラント総督アルバ公の銅像とそのゆくえ.....保井亜弓

第8回モンゴル学術交流会

「和光大学モンゴル祭り2003」の一環として.....呉人徳司
中国朝鮮族社会の文化的特徴と発展の方向.....金 強 一
人文科学、表現文化における「民族誌的転回」をめぐって
若者文化と反グローバル運動.....ベンヤミン・ペラソヴィッチ
フィルタリングの政治と闘い スパム、ウィルス、ノイズ ヴァーチャルな共同性の民族誌に向かって.....ヘアー
ト・ロヴィンク

和光大学総合文化研究所『東西南北』の編集に関する申し合わせ事項 / 『東西南北』および『東西南北・別冊』投稿要領
発行 2004年3月15日 発行人 ユ・ヒョジョン 制作 株式会社 早稲田大学事業部

東西南北 2005

「東西南北2005」刊行にあたって.....ユ・ヒョジョン

特集 インド調査報告「インドの芸術と信仰」

東西から見た古代インド.....松枝 到
調査の概要：東・北インドの踏査.....東西交渉史研究会
西インド：女神の聖地を訪ねて.....松枝 到・東 聖子
クシャーণ朝三都の仏教美術 マトゥラーとカピサの関係をめぐって.....前田たつひこ
伝説の中のボードガヤー（ブッダガヤ）飾られた仏陀と宝冠仏への視座.....北 進一
スィッディー：インドのアフリカ系「部族」について.....村山和之

特集 世紀転換期における「移動の自由」

序言.....橋本 堯
移動の自由の獲得.....橋本 堯
資料・松川二郎.....奥須磨子
北東アジアの鉄道史における1906年.....原田勝正

特集 人間科学、表現文化における「民族誌的転回」をめぐって

民族誌家マキャヴェッリ.....上野俊哉
美術の民族誌的転回へ向けて.....野々村文宏

特集 宗教と芸能のあいだ

聖なる者の光芒 伊勢の子良館をめぐって.....山本ひろ子
ナンバの民俗学 湿田農耕の芸能化.....福原敏男
浄土と地獄 立山曼荼羅の絵解きと見世物の口上.....内藤正敏

ミクロ・マクロ経済学の授業研究：2001 - 2003年度.....山田 久

フィールドと研究のポリティックス アルジェリアのブルデュー、ブルデューのアルジェリア.....フランツ・シュルタ
イス・櫻本陽一 / 訳

科学史のための「弁明」 科学史とはなにか、それはなぜ重要か.....トレヴァ・ルヴィア、内田正夫 / 訳

バーミヤン遺跡の現場からの報告.....前田耕作

発行 2005年1月30日 発行人 ユ・ヒョジョン 制作 株式会社 早稲田大学事業部

東西南北 別冊01 地域社会における在日朝鮮人とGHQ

占領期における地域社会と在日朝鮮人 地方史から見えてくるもの.....ロバート・リケット

占領期宮城県地域における在日朝鮮人社会.....李燐娘

山口県における民族教育擁護運動.....瀬上幸恵

益田事件 私的なノート.....笹本征男

[特別報告] 国旗掲揚問題と在日朝鮮人社会.....孫文奎

怒りの海峡 ある在日朝鮮人の戦後史.....金興坤

[証言 1] 評定河原事件をめぐって 金興坤さんと鄭達先さんのお話

その日を思い出して.....金興坤

国旗事件とその前後.....鄭達先

[証言 2] 占領下の日常生活 鄭達先さんのお話

[証言 3] 宮城県共産党と仙台の在日朝鮮人社会 高橋正美さんと遠藤忠夫さんのお話

私の党活動と朝連.....高橋正美

私と朝鮮人の関わり.....遠藤忠夫

柳少年と竹とんぼ.....高橋正美

結び.....篠原睦治

朝鮮研究会の研究発表一覧 / 朝鮮研究会のメンバー一覧

『東西南北・別冊』発刊にあたって.....岡本喜裕

発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所 発行日 2000年12月1日

東西南北 別冊02 アジアの教育 その変貌と未来

まえがき

「アジアの教育 研究と交流」三年間の歩み.....石原静子

活動概要 / 報告冊子等一覧

バブアニューギニアの教育 学校はこの国の人びとに幸せを保障するか.....奥平康照

平和の文化とアジアの教育 OECD 調査とベトナム旅行体験から.....伊藤武彦

知は運命を変える 変動する中国社会における学びへの期待.....加藤三由紀

ネパールの農業問題.....内田正夫

アジア諸国の情報機器と情報インフラ事情.....角田光司

シンガポールの公園で確かめたこと 戦争責任と教育実践の課題.....福島達夫

『東西南北 別冊02』発刊にあたって.....岡本喜裕

発行 2001年12月1日 発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所

東西南北 別冊03 アジア日系企業の人材育成

グローバル・マネジメント研究会・編

まえがき

[第一章] アジア日系企業の人材育成に関する調査 コア人材を中心に.....鈴木岩行

[第二章] コア人材に関するヒアリング調査の分析・考察 東南アジア日系企業を中心に.....谷内篤博

[第三章] コア人材に関するヒアリング調査の分析・考察 中国日系企業を中心に.....鈴木岩行

[第四章] 中国語能力を有する人材の育成について.....白石裕一

『東西南北・別冊03』 発刊にあたって……岡本喜裕

発行人 岡本喜裕 和光大学総合文化研究所 発行日 2002年12月1日

東西南北・別冊04 アラビア海の文化誌

アラビア海東域の港湾都市をめぐる文化・民族複合の実態調査・編

まえがき

第一部 スリランカ・インドにみるポルトガル・オランダの軌跡

スリランカのカトリック文化をめぐる……澁谷利雄

インド・ケーララ州のキリスト教 その多様性とアラビア海交易……川島耕司

Malay Minority of Sri Lanka: Defending Their Identity……Suwarn Vajracharya

第二部 ペルシア港湾都市にみる対ヨーロッパ文化接触の形跡をめぐる

調査活動の概要……前田たつひこ・山内和也

フィールドノート パルデスターンのパン焼き……山内和也・村山和之

マクラーン海岸の南蛮人とそのイメージ……村山和之

『東西南北・別冊04』 発刊にあたって……岡本喜裕

発行 2002年12月15日 発行人 岡本喜裕

◎関連出版物 研究プロジェクト等の研究成果をもとに、学外の出版社から刊行された書籍

- 『語りあい見せあい大学授業』 和光大学授業研究会 大月書店 1996
- 『東京・関東大震災前後』 原田勝正・塩崎文雄 編 日本経済評論社 1997
- 『変容するモンゴル世界』 和光大学モンゴル学術調査団 編 新幹社 1999
- 『「国民」形成における統合と隔離』 原田勝正 編著 日本経済評論社 2001
- 『東アジアの経済発展と環境』 小林弘明・岡本喜裕 編著 日本経済評論社 2005

◎研究所発足以前の共同研究などによる刊行物（刊行年順）

- 『C&U Computer and University』 「コンピュータ社会と大学の未来像」研究グループ 1（1984.3）～3（1986.3）
- 『アジア研究』 アジア研究・交流教員グループ 1（1984.3）～10（1996.9）
- 『中世研究 第1集 日高流域の地域形成 造形史を通して』 中世研究会（1986.3）
- 『象徴図像研究』 象徴図像研究会 Vol.I（1987.3）～Vol.XI（1997.3）
- 『「入門研」報告』 「大学入門期教育の実践的研究」グループ（1987.3～1995.3 この間誌名グループ名変遷）
- 『生活・労働・余暇』 生活科学論研究会 1（1991.3）～特別号（1995.3）
- 『朝鮮研究』 朝鮮研究会（1992.3）
- 『パロースターン調査概報』 象徴図象研究会（1992.3）
- 『権威的秩序と価値意識 報告と討論集』 「権威的秩序と価値意識」研究会（1993.3）
- 『言語文化』 言語文化研究会 1994（1995.3）～1996（1997.3）
- 『物語表現 1994』 物語表現研究会（1995.3）
- 『アジア太平洋研究』 アジア太平洋地域と日本の役割研究会 1（1995.3）～2（1996.3）
- 『フェミニズム・ジェンダー文献目録』 フェミニズム・ジェンダー研究会 1998.6
- 『東南アジアにおける日系企業の経営に関する調査研究』 企業比較分析研究会（2000.7）

●研究プロジェクトの変遷

1995年度（16プロジェクト）（カッコ内は代表者名）

A系 [アジア・地域研究系] アジア研究・交流教員グループ（針生一郎）／朝鮮研究会（R. リケット）／関東大震災研究会（塩崎文雄）／アジア太平洋地域と日本の役割研究会（梅中雅比古）／現代中国研究会（佐治俊彦）／19世紀末研究会（原田勝正）／スリランカ研究フォーラム（澁谷利雄） B系 [表象・文化研究系] 象徴図像研究会（前田耕作）／物語表現研究会（杉本紀子）／フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／共同研究 モンゴルの変容する社会と文化の諸相（三橋修）／言語文化研究会（松山幹秀） C系 [教育・生活研究系] 生活科学論研究会（服部百合子） [取消]／高等教育の総合的研究（石原静子）／現代社会と学校（奥平康照）／子ども文化研究会（酒寄進一）

1996年度（15プロジェクト）

A系 アジア研究フォーラム（佐治俊彦）／現代中国研究会（佐治俊彦）／アジア太平洋地域と日本の役割研究会（梅中雅比古）／朝鮮研究会（R. リケット）／関東大震災研究会（塩崎文雄）／19世紀末研究会（原田勝正）／共同研究 モンゴルの変容する社会と文化の諸相（三橋修） B系 言語文化研究会（松山幹秀）／フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／象徴図像研究会（前田耕作）／子ども文化研究会（酒寄進一）／物語表現研究会（杉本紀子） C系 計算機統計研究会（伊藤武彦）／高等教育の総合的研究（石原静子）／現代社会と学校（奥平康照）

1997年度（15プロジェクト）

A系 アジア研究交流フォーラム（佐治俊彦）／現代中国研究会（佐治俊彦）／アジア太平洋地域と日本の役割研究会（岡本喜裕）／スリランカ研究フォーラム（澁谷利雄）／19世紀末研究会（原田勝正）／朝鮮研究会（ロバート・リケット）／沖縄の地域社会（中生勝美）／共同研究 モンゴルの変容する社会と文化の諸相（三橋修） B系 フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／シンボル文化研究会（前田耕作）／物語表現研究会（植村洋） C系 アジアの教育 研究と交流（石原静子）／企業行動分析研究会（飫富延久）／多摩（丘陵）地域のフィールドワーク（福島達夫）／情報システムによる教育研究支援研究チーム（伊藤武彦）

1998年度（15プロジェクト）

A系 アジア研究交流フォーラム（佐治俊彦）／現代中国研究会（佐治俊彦）／「在日」フォーラム（ロバート・リケット）／沖縄の地域社会（中生勝美）／スリランカ研究フォーラム（澁谷利雄）／南西アジア研究会（松枝到）／19世紀末を中心とする日本の進路決定（原田勝正） B系 フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／言語文化研究会（松山幹秀）／表象研究会（植村洋）／シンボル文化研究会（前田耕作） C系 アジアの教育 研究と交流（石原静子）／企業行動分析研究会（飫富延久）／多摩丘陵地域の研究（福島達夫）／教育研究へのコンピュータ利用（伊藤武彦）

1999年度（14プロジェクト）

A系 アジア研究交流フォーラム（佐治俊彦）／現代中国研究会（佐治俊彦）／地域環境研究グループ（岡本喜裕）／スリランカ研究フォーラム（澁谷利雄）／南西アジア研究会（松枝到）／19世紀末を中心とする日本の進路決定（原田勝正） B系 フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／言語文化研究会（松山幹秀）／表象研究会（杉本紀子）／シンボル文化研究会（松村一男） C系（アジアの教育 研究と交流（石原静子）／企業行動分析研究会（飫富延久）／高等教育革新の実践的研究（石原静子）／教育研究へのコンピュータ利用（小林稔）

2000年度（16プロジェクト）

A系 アジア研究交流フォーラム（ユ・ヒョジョン）／現代中国研究会（佐治俊彦）／地域環境研究グループ（岡本喜裕）／スリランカ研究フォーラム（澁谷利雄）／南西アジア研究会（松枝到）／多国家（分散・分断）民族における内なる民族関係（ユ・ヒョジョン）／19世紀末における東アジアと日本（原田勝正） B系 フェミニズム・ジェンダー研究会（井上輝子）／言語文化研究会（鈴木勲介）／表象研究会（杉本紀子）／シンボル文化研究会（松村一男）／宗教芸能研究会（山本ひろ子） C系 企業行動分析研究会（飫富延久）／教育研究へのコンピュータ利用研究会（小林稔）／民族と言語教育 アジアを中心として（奥平康照）／「平和の文化」研究会（伊藤武彦）

2001年度 (15プロジェクト)

A系 アジア研究交流フォーラム(ロバート・リケット)/地域環境研究グループ(三浦郷子)/スリランカ研究フォーラム(澁谷利雄)/南西アジア研究会(川添修司)/多国家(分散・分断)民族における内なる民族関係 モンゴル、朝鮮民族を中心に(ユ・ヒョジョン)/世紀転換期と東アジア(橋本堯) B系 表象研究会(杉本紀子)/神話・イメージ研究会(松村一男)/宗教芸能研究会(山本ひろ子) C系 グローバル・マネジメント研究会(飫富延久)/経済学教育研究会(岡本典子)/民族と言語教育(奥平康熙)/インターネット・ピース・ジャーナリズム研究会(伊藤武彦)/青年期健康指標研究会(永井博)/アラビア海東域の港湾都市をめぐる文化・民族複合の実態調査(澁谷利雄)

2002年度 (15プロジェクト)

A系 アジア研究交流フォーラム(ロバート・リケット)/東・東南アジアにおける地域環境の現状(岡本喜裕)/スリランカ研究フォーラム(澁谷利雄)/東西交渉史研究会(松枝到)/多国家(分散・分断)民族における内なる民族関係(ユ・ヒョジョン)/世紀転換期と東アジア(橋本堯)/戦後資料研究会(ロバート・リケット) B系 表象研究会(杉本紀子)/神話・イメージ研究会(松村一男)/宗教芸能研究会(山本ひろ子) C系 地域企業の活性化と大学の社会的貢献活動(飫富延久)/グローバル・マネジメント研究会(重点)(鈴木岩行)/経済学教育研究会(岡本典子)/インターネット・ピース・ジャーナリズム研究会(伊藤武彦)/青年期健康指標研究会(永井博)

2003年度 (21プロジェクト)

A系 アジア研究交流フォーラム(ロバート・リケット)/東・東南アジアにおける地域環境問題の現状とわが国の役割に関する学際的研究(岡本喜裕)/戦後資料研究会(ロバート・リケット)/多国家(分散・分断)民族における内なる民族関係(ユ・ヒョジョン)/東西交渉史研究会(松枝到)/世紀転換期と東アジア(橋本堯)/地域環境活動研究会(堂前雅史) B系 表象研究会(杉本紀子)/神話・イメージ研究会(松村一男)/宗教芸能研究会(山本ひろ子) C系 グローバル・マネジメント研究会(鈴木岩行)/地域企業の活性化と大学の社会貢献(飫富延久)/経済学教育研究会(山田久)/青年期健康指標研究会(矢田秀昭)/インターネット・ピース・ジャーナリズム研究会(伊藤武彦)/経済生活についての歴史・思想・文化研究会(伊東達夫)/近現代の戦争と軍隊(塩崎文雄)/参加型授業の研究(梅原利夫)/現代社会における支配・排除とマイノリティ(岩間暁子)/キャンパス・セクシャル・ハラスメント研究会(岡本典子)/人間科学、表現文化における「民族誌的転回」をめぐる(上野俊哉)

2004年度 (14プロジェクト)(この年は3系区分なし)

ウーマンリブの思想と運動 一次資料の解説を通して(船橋邦子)/人間科学、表現文化における「民族誌的転回」をめぐる(上野俊哉)/世紀転換期と東アジア(橋本堯)/日本を中心とした儀礼文化と身体の考察(山本ひろ子)/21世紀における経済生活について歴史・思想・文化の位相について(伊東達夫)/東西交渉史から見たアジア文化の変容~FWとその報告(松枝到)/近現代の戦争と軍隊(塩崎文雄)/来世と死の観念についての文化史的・宗教学的的研究(永澤峻)/経済学教育に関わる授業相互間の連携と授業方法の研究(山田久)/大学で実現できる国際協力に関する研究(バンバン・ルディアント)/アジアにおける人材教育に関する調査研究 中国およびインドの現地企業と外資系企業の人材教育の比較(鈴木岩行)/情報教育の実態把握とその実践および指導方法に関する総合的研究(小林稔)/産学交流と大学の役割 大学の地域貢献を目指して(飫富延久)/現代社会とマイノリティ 支配・排除・抵抗の諸相(岩間暁子)

2005年度 (20プロジェクト)(3系区分を変更)

A・社会研究系 21世紀における経済生活についての歴史・思想・文化の位相について(伊東達夫)/日本近代化の問題点 明治国家形成期の明と暗(橋本堯)/シンポジウム「戦前としての今日」のとりまとめ(杉本紀子)/町田市における家庭内介護の実態調査 「誰が」「誰を」「どのように」介護しているのか(樋口弘夫)/ウーマン・リブの拓いた地平 一次資料の解説および聞き取り調査から(船橋邦子)/地域の活性化に対する大学の役割~産学交流の実践と大学の地域貢献~(飫富延久)/「聖なるものと批判理論」研究会(浅見克彦) B・文化研究系 紛争解決教育の理論的・実証的研究(伊藤武彦)/学生による参加型授業の創造(梅原利夫)/効果的eラーニング教育手法に関する研究(加藤賢次郎)/近現代日本の戦争と軍隊(塩崎文雄)/経済学教育に関わる授業相互間の連携と授業法の研究(山田久)/地域社会におけるスポーツ振興の推進 総合型地域スポーツクラブの地域貢献(矢田秀昭)/情報教育の実

総合文化研究所 プロジェクトチームの変遷

年 度	1995	1996	1997	1998	1999	2000
A系	アジア研究・交流教員グループ	アジア研究交流フォーラム				
					地域環境研究グループ	
	スリランカ研究フォーラム	スリランカ研究フォーラム				
				南西アジア研究会		
	朝鮮研究会			在日フォーラム		
	19世紀末研究会			19世紀末を中心とする日本の進路決定		19世紀末における東アジアと日本
	現代中国研究会					
	アジア太平洋地域と日本の役割研究会					
	関東大震災研究会					
	共同研究 モンゴルの変容する社会と文化の諸相（1995はB系）					
			沖縄の地域社会			
	B系	物語表現研究会				
象徴図像研究会		シンボル文化研究会				
言語文化研究会		言語文化研究会				
フェミニズム・ジェンダー研究会						
C系	現代社会と学校					民族と言語教育
			企業行動分析研究会			
	子ども文化研究会					「平和の文化」研究会
	計算機統計研究会	情報システムによる教育研究支援				
	高等教育の総合的研究		アジアの教育 研究と交流			
			多摩（丘陵）地域のフィールドワーク			
			高等教育革新の実践的研究			
（生活科学論）						

注意：継続や関連があるプロジェクトを横方向へおおむね連続するように配置したが、横へ直接隣接していないものどうしはそこがぎりではない。

2001	2002	2003	2004	2005	2004年度は3系区分なし/また2005年度は系分類を変更したので区分と一致しない
	東・東南アジアにおける地域環境問題の現状				
	東西交渉史研究会	東西交渉史から見たアジア文化の変容	『象徴図像研究』の成果をめぐる理論的検討		
多国家（分散・分断）民族における内なる民族関係				町田市における家庭内介護の実態調査	
世紀転換期と東アジア		世紀転換期と東アジア	日本近代化の問題点 明治国家形成期の明と暗		
				「聖なるものと批判理論」研究会	
				中央アジア諸民族の文化諸相に関する動態的研究	
				シンポジウム「戦前としての今日」のとりまとめ	
	戦後資料研究会				
		地域環境活動研究会			
表象研究会					
神話・イメージ研究会			来世と死の観念についての文化史的・宗教学的研究		
宗教芸能研究会			儀礼文化と身体の考察		
				効果的 e ラーニング教育手法に関する研究	
			ウーマン・リブの思想と運動	ウーマン・リブの拓いた地平	
アジアを中心として			大学で実現できる国際協力に関する研究		
グローバル・マネジメント研究会		アジアにおける人材教育に関する調査協力	中国における人材育成に関する調査研究		
経済学教育研究会			経済学教育に関わる授業相互間の連携と授業方法の研究		
インターネット・ピース・ジャーナリズム研究会				紛争解決教育の理論的・実証的研究	
青年期健康指標研究会				地域社会におけるスポーツ振興の推進	
			情報教育の実態把握とその実践および指導方法に関する総合的研究		
		参加型授業の探究		学生による参加型授業の創造	
		経済生活についての歴史・思想・文化	21世紀における経済生活についての歴史・思想・文化		
	地域企業の活性化と大学の社会貢献	産学交流と大学の役割	地域の活性化に対する大学の役割		
		近現代の戦争と軍隊	近現代日本の戦争と軍隊		
		現代社会における支配・排除とマイノリティ	現代社会におけるマイノリティの総合研究		
		キャンパス・セクシャル・ハラスメント研究会			
アラビア海東域の港湾都市をめぐる		人間科学、表現文化における「民族誌的転回」をめぐる			

態把握とその実践的方法論に関する研究（小林稔）／来世と死の観念についての文化史的・宗教学研究（永澤峻）
 C・アジア研究系 大学で実現できる国際協力に関する研究（バンバン・ルディアント）／中国における人材育成に関する調査研究 中国企業と外資系企業における人材育成の有効性の比較（鈴木岩行）／『象徴図像研究』の成果をめぐる理論的再検討と課題研究（松枝到）／中央アジア諸民族の文化諸相に関する動態的研究（坂井弘紀）／現代社会におけるマイノリティの総合研究 東アジア・アメリカ・ヨーロッパの国際比較（岩間暁子）

●和光大学総合文化研究所主催 公開シンポジウム

（共同研究機構時代）

- 1992.10.30 文化としての言葉 あなたと私の世界
- 1993.10.29 あなたと私の世界 Part 2 言葉の背景 個人と集団
- 1994. 世界のなかの「わたし」と「われわれ」

（総合文化研究所発足以後）

- 1995.10.27～28 日本の戦争責任と東アジア、太平洋戦争と日米のマイノリティ
- 1996. 5.18 21世紀にむけて 大学のあり方を考える
- 1997.10.18 身体表現とジェンダー
- 1997.12. 6 アジアの中の教科書裁判 近現代日本の歴史認識
- 1998.11. 7 民族紛争の現在 日本から考える
- 1999.11.27 二つの世紀末と日本・アジア
- 2000. 9.25 イメージと言語 聖なるものをめぐって
- 2001.11.16 東西文化交流と比較神話
- 2002.11. 9 食料関連産業と環境 アジアと日本
- 2003.11.15 エスニック・マイノリティの『教育』から日本の『学校』を考える
- 2004.10.23 戦前としての今日 文化の混淆、融解、拒絶をめぐって
- 2005. 7. 9 大学における研究活動は、いま～大学付属研究所の現状と未来～

●研究所主催 催し物（2004年度から）

- 2004. 4.23 フィールドと研究のポリティックス アルジェリアのブルデュー
- 2004. 6.23 科学史とはなにか 科学史のための「弁明」
- 2004.11.13 死生観の原点：古代ギリシアの死生観をイメージ資料で読み解く
- 2004.12.22 和光大学 モンゴル学術祭04（モンゴル民族文化基金と共催）
- 2005. 1.28 吉増剛造／上野俊哉 観“ながら”喋る
- 2005. 6. 1 社会問題に立ち向かうカウンセリング
- 2005. 6.20 アリランの流れる島 サハリン残留朝鮮人の記憶（写真展と語り合い）
- 2005. 7. 7 ベトナム戦争は終わっていない～30年後の枯れ葉剤被害と国際支援の現状～
- 2005. 7.16 「からだ」から「障害児・家族・地域」の支援を考える～ムーブメント教育・療法の実践を中心に～
- 2005. 7.15 プチ・メディアの誘惑 ON AIR 88MHz 7.15（fri）
- 2005.10.15 大学図書館の研究支援機能の充実（和光大学附属梅根記念図書館と共催）
- 2005.11.26 モンゴル学術祭05（モンゴル民族文化基金と共催）



『共同研究機構報』No.1（1991）



和光大学総合文化研究所の看板
杉山康彦所長揮毫（1995）



現在の研究所事務室（G棟3階）



『東西南北』本誌と別冊、既刊全冊（2005）



研究所創設記念シンポジウム「戦後50年を考える」ポスター（1995）



2001年度公開シンポジウム「東西文化交流と比較神話」ポスター



2004年度モンゴル学術祭 ポスター

●和光大学総合文化研究所関係諸規程（2005年12月現在）

参考資料 和光大学総合文化研究所規程（1995年4月施行）

和光大学共同研究機構規程（1992年4月施行）

和光大学総合文化研究所規程⁽¹⁾

（名称）

第1条 この研究所は、和光大学総合文化研究所（以下「研究所」という。）と称し、和光大学内に設置する。

（目的）

第2条 研究所は、既存の学問や学部を超えた問題意識に基づく研究プロジェクトを中心として課題研究を行い、文化の創造と学術の発展に寄与するとともに、本学の教育・研究の基礎を培い、その水準を高揚することを目的とする。

（事業）

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究調査
- (2) 研究会、講演会およびシンポジウム等の開催
- (3) 研究所の公報・紀要の発行
- (4) 学部の教育ならびに研究への協力
- (5) 大学の研究活動の活性化と発展のための活動
- (6) その他研究所の目的達成に必要な事項

（研究プロジェクト）

第4条 研究所は、具体的な研究課題を推進するための研究プロジェクトを置く。⁽²⁾

2．研究プロジェクトの組織及び運用に関する細則は別に定める。

（研究系）

第5条 研究所は、研究プロジェクトの円滑な運用のために、研究系を設置する。⁽²⁾ 研究プロジェクトはいずれかの研究系に属するものとする。

2．第1項に規定する研究系は、次のように定める。⁽³⁾

- (1) 社会研究系
 - (2) 文化研究系
 - (3) アジア研究系
- 3．各研究系には、代表者を置く。

（所長）

第6条 研究所に、所長を置く。

2．所長は、研究所の業務を統括し、研究所を代表する。

3．所長の選任方法については、別に定める。

（委員会）

第7条 研究所に、企画・運営のために研究所委員会（以下「委員会」という）を置く。

（委員会の構成）

第8条 委員会は、所長、各研究系の代表者と本学専任教員の内から選ばれた他の2名で

(1) 1995年総合文化研究所規程が制定され、1991年度から施行されてきた共同研究機構規程は廃止された。その後、本規程は1999年度と2004年度に改正され、それぞれその翌年4月から施行された。

(2) 2004年度改正において、研究プロジェクトを基礎単位とし、それをまとめるものとして系が設置されることが明記された。

(3) 系はもともと、アジア・地域研究系、表象・文化研究系、教育・生活研究系の3系であったが、2004年度の改正によって組織および名称が変更された。

構成する。

2. 前項のうち本学専任教員の内から選ばれる委員2名は、学長と所長および研究系の代表者として協議の上、候補者を選び、教授会の承認を得て学長が任命する。

3. 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない、任期中に欠員が生じたときは、その後任者の任期は前任者の残任期間とする。

（委員会の審議事項）

第9条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画、研究および運営の基本方針に関する事項
- (2) 研究系の新設および廃止に関する事項
- (3) 予算申請原案の作成、予算の執行および決算に関する事項
- (4) 公報・紀要の編集、発行に関する事項
- (5) 研究所の施設および設備に関する事項
- (6) 学内外との共同研究等に関する事項
- (7) 学外機関に推薦すべき研究計画の選考に関する事項⁽⁴⁾
- (8) 共同研究員および客員研究員に関する事項⁽⁴⁾
- (9) その他研究所に関する重要事項

(4) 2004年度改正において第(7)項、および第(8)項が追加された。

（委員会の招集）

第10条 委員会は、所長が招集し主宰する。

（所員、共同研究員および客員研究員）

第11条 研究所に、所員を置く。

2. 所員は、次の者をもってこれに当てる。

- (1) 研究所専任教員
- (2) 研究所兼任・兼任教員。但し、学部に属する全専任教員は研究所兼任とする。
- (3) 研究所助手

3. 研究所は、必要により所員以外に共同研究員を置くことができる。但し、共同研究員に関する細則は別に定める。⁽⁵⁾

(5) もとは特別研究員の名称であった。2004年度改正で共同研究員の名称となった。

4. 研究所は、必要により客員研究員を置くことができる。但し、客員研究員に関する細則は別に定める。

（所員の任務）

第12条 研究所の所員は、研究、調査、教育その他研究の促進に必要な事業に従事する。

2. 教授会は、年次報告の他、必要があると認めるときは所員に対し、研究等に関する報告を求めることができる。

（所員会議）⁽⁶⁾

(6) 2004年度改正において、所員会議に関する規定（第13条～第16条）が追加された。

第13条 研究所は、所員会議を置く。

（所員会議の構成）

第14条 所員会議は、全所員によって構成する。

（所員会議の招集）

第15条 所員会議は、所長が招集し主宰する。但し、各学部毎に開催する場合は、学部長に主宰の職務を委ねることができる。

（所員会議の任務）

第16条 所員会議は、次の事項を行う。

- (1) 所長候補者の選考と、これの学長への推薦
- (2) 委員会が必要と認めた事項
- (3) その他、研究所活動に関する事項

(研究所の事務)

第17条 研究所の事務を処理するため、事務職員を置く。

(経費)

第18条 研究所の経費は、和光大学の研究所予算、寄付金、研究補助金等の収入をもってこれにあてる。

2. 予算の執行に関する細目は、別に定める。

(改廃手続)

第19条 この親程の改廃は、委員会および教授会の承認を得て、学長がこれを行う。

付則

1. この規程は、平成7年4月1日から施行する。

2. 平成3年11月8日制定した和光大学共同研究機構規程は、これを廃止する。

付則

(この規程は平成12年4月1日から施行する。)

この規程は平成17年4月1日から施行する。

和光大学総合文化研究所長選考規程⁽⁷⁾

(7) 所長選考規程は1996年度に制定され、1999年12月に改正・施行された。

第1条 和光大学総合文化研究所長(以下「所長」という。)の選考および任命は、所員のうちから、運営委員会の議に基づき学長がこれを行う。

第2条 学長は、次の各号の1に該当する場合には、各学部の所員に対し所長候補者の選出を要請するものとする。

(1) 所長の任期が満了するとき。

(2) 所長が辞任したとき。

(3) 所長が欠員となったとき。

2. 学長は、前項1号の場合には少なくとも3ヵ月前に、2号および3号の場合には速やかにこれを行うものとする。

第3条 所員は、学長から前条の要請を受けたのち、所員会議において所員のうちから1名を所長候補者として選び、これを学長に推薦する。

2. 所長選考に関わる所員会議は、各学部に属する所員の責任において各学部毎に行うこともできる。但し、各学部の所員会議は同日同時刻に開催するものとする。

3. 所長候補者は、所員の投票によるものとし、投票総数の過半数を得た者をこれに当てる。最初の投票で過半数を得る者がいない場合は、積算合計が過半数に至るまでの上位得票者を候補者として、繰り返し投票を行い、候補者を定める。

4. 開票は全学部統合して行う。

第4条 学長は、運営委員会の議を経て、所長を任命する。

第5条 所長の任期は3年とする。ただし再任を妨げない。

付則

(この規程は、平成8年11月8日から施行する。)

この規程は、平成11年12月10日から施行し、平成11年12月1日から適用する。

和光大学総合文化研究所研究プロジェクトに関する細則⁽⁸⁾

(組織)

第1条 和光大学総合文化研究所規程第5条に基づく和光大学総合文化研究所研究プロジェクト(以下「研究プロジェクト」という。)は、所員3名以上によって構成される。

2. 研究プロジェクトには研究上の必要に応じて共同研究員を委嘱することができる。ただし、各研究プロジェクトにおいて、共同研究員の人数は所員の人数を超えてはならない。その他、共同研究員の委嘱に関する細則は別に定める。

(研究費の配分)

第2条 研究プロジェクトの選定については、プロジェクト選考委員会を別途に設け⁽⁹⁾、各研究プロジェクトの計画案に基づいて、プロジェクトの採否および研究費の配分に関する原案の策定を委嘱する。研究所委員会(以下「委員会」という)はその結論を尊重してこれを決定する。選考委員の委嘱は所長が行う。

(研究期間)

第3条 同一研究プロジェクトによる研究期間は、原則として2年以内とする。⁽¹⁰⁾

(代表者)

第4条 各研究プロジェクトに、代表者を置く。原則として、同一の所員が複数のプロジェクトの代表者を兼ねることはできない。

(代表者会議)

第5条 代表者で代表者会議を構成する。

2. 代表者会議は、必要に応じて、委員会からの諮問に応ずる。

(研究経過の報告)

第6条 研究プロジェクトは、研究活動の経過について、各年度の終わりに報告書を研究所長に提出するものとする。報告書は、web ページへの掲載等の方法によって公表するものとする。

(研究成果の公表)

第7条 研究プロジェクトは、研究の最終年度ないし研究終了後半年以内に研究の成果を提出しなければならない。その成果は『東西南北』その他の研究所が編集・刊行する出版物に掲載されるものとする。なお、研究成果の一部を他の媒体に転載公表することは差し支えない。⁽¹¹⁾

(義務が履行されない場合)

第8条 前条の研究成果提出などの義務が履行されない場合、それが履行されるまでの間、当該プロジェクト参加者は研究プロジェクトに関わる予算執行をすることはできない。

付則

(この細則は、平成12年4月1日から施行する。)

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

和光大学総合文化研究所共同研究員に関する細則⁽¹²⁾

(共同研究員の委嘱)

第1条 和光大学総合文化研究所(以下「研究所」という。)は、研究活動の推進上の必要に応じて、研究所規程第11条第3項に基づき、所員以外の者を共同研究員として委嘱する

(8) プロジェクトに関する細則は1999年度に制定され2000年度から施行された。その後、2004年度に改正され、2005年度から施行された。

(9) 2004年度改正でプロジェクト選考委員会の設置が明記された。

(10) 2004年度改正で3年から2年に変更された。

(11) 2004年度改正で研究成果の公表義務が明記され、併せて、義務が履行されない場合のペナルティも規定された(第8条)

(12) 1999年度に特別研究員に関する細則として制定され、2004年度に共同研究員に関する細則として改正され、2005年度から施行された。

ことができる。

第2条 共同研究員の委嘱は、研究プロジェクトの代表者の申請に基づき、研究所委員会が決定する。

（共同研究員の権利と義務）

第3条 共同研究員は研究プロジェクトのメンバーとして、所員と同等の立場で研究活動に参加するものとする。

（委嘱の条件）

第4条 共同研究員は、本学名誉教授、本学非常勤講師、他大学ないし他研究機関の教員・研究員あるいはこれらに準ずる者のうちから委嘱する。学部および大学院修士課程在籍者は、特別の場合を除いて、委嘱対象者としない。

第5条 各研究プロジェクトにおいて、共同研究員の人数は所員の人数を超えてはならない。

（委嘱期間）

第6条 委嘱期間は、当該研究プロジェクトの継続期間内とする。ただし、委嘱の手続きは毎年度行うものとする。⁽¹³⁾

(13) 2003年度より委嘱状を発行することとし、2005年度には委嘱の手続をより整備した。

第7条 共同研究員として委嘱される者が外国在住者の場合、入国査証等に関する手続きは、原則として本人の責任において行うものとする。ただし、研究所および大学が必要と認めた事項については、研究所および大学がそれを行う。

付則

（この細則は平成12年4月1日から施行する。）

この細則は平成17年4月1日から施行する。

和光大学総合文化研究所客員研究員の受け入れに関する細則⁽¹⁴⁾

（趣旨）

第1条 和光大学総合文化研究所（以下「研究所」という。）は、国内外の大学または研究機関において教育・研究に従事している者が、研究所において研究を行おうとするときは、研究所規程第11条第4項に基づき、客員研究員としてこれを受け入れることができる。

（受入資格）

第2条 客員研究員として受け入れることができる者は、しかるべき研究機関の研究員および大学の教授、助教授（準教授）、講師、助手ならびに大学院博士課程の学生、およびこれらに準ずる者とする。

（申請手続）

第3条 客員研究員として受け入れを希望する者は、あらかじめ申請書に、受け入れに責任を持つ所員（以下、「責任者」という。）の名を記した上、研究計画書および履歴書を添付して研究所長（以下「所長」という。）宛に願い出るものとする。

（受入手続）

第4条 客員研究員の申請があったときは、所長は、委員会の議を経て適当と認められる場合に、責任者を定めて客員研究員として受け入れることができる。

（研究期間）

第5条 研究期間は、1年以内とする。ただし、事情により延長することができる。

（施設の利用等）

(14) 客員研究員の名称は以前からあったが、本細則は2004年度にはじめて制定され、2005年度から施行された。

第6条 客員研究員は必要に応じて、本学の共同研究室・図書館などの諸施設・諸設備を利用することができる。また、必要に応じて研究所の活動に参加することができる。

（旅費等の負担）

第7条 旅費、滞在費、宿舍費等は、本人がこれを負担するものとする。

（入国手続）

第8条 外国在住者の場合、入国査証等に関する手続きは、原則として本人の責任において行うものとする。ただし、研究所および大学が必要と認めた事項については、研究所および大学がそれを行う。

付則

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

特別研修員の受け入れに関する細則⁽¹⁵⁾

(15) 2005年10月に制定され、施行された。

（目的）

第1条 この規程は、和光大学総合文化研究所規程第11条第5項に基づき、特別研修員の受け入れに関する規則を定めることを目的とする。

（受入資格）

第2条 和光大学総合文化研究所（以下「研究所」という。）は、和光大学大学院修士課程を修了した者がひきつづき本学において研究を行おうとするとき、特別研修員としてこれを受け入れることができる。

（申請手続）

第3条 特別研修員として受け入れを希望する者は、定められた期間に、別に定める申請書などに必要事項を記入し、和光大学大学院研究科委員長の推薦書を添付して研究所長宛に願出するものとする。

（受入手続）

第4条 特別研修員の申請があったときは、研究所長は、研究所委員会の議を経て適当と認められる場合に、受け入れに責任を持つ所員を定めて特別研修員として受け入れることができる。

（研究期間）

第5条 研究期間は、1年以内とする。ただし、事情により半年間に限り延長することができる。

（施設等の利用）

第6条 特別研修員は、必要に応じて、本学の共同研究室・図書館などの諸施設・諸設備を利用することができる。また、必要に応じて研究所の活動に参加することができる。

（研究発表）

第7条 特別研修員は、その在籍期間中に少なくとも1回の研究発表を行うものとする。

付則

この細則は、平成17年10月1日から施行する。

参考資料

和光大学総合文化研究所規程（1995年）⁽¹⁶⁾

（名称）

第1条 この研究所、和光大学総合文化研究所（以下「研究所」という。）と称し、和光大学内に設置する。

（目的）

第2条 研究所は、既存の学問や学部を超えた問題意識に基づくプロジェクトチームを基盤として総合研究を行い、文化の創造と学術の発展に寄与し、もって本学の教育・研究の基礎を培い、その水準を高揚することを目的とする。

（事業）

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 共同研究による研究調査
- (2) 研究会、講演会およびシンポジウム等の開催
- (3) 研究所の公報・紀要の発行
- (4) 学部の教育ならびに研究への協力
- (5) その他研究所の目的達成に必要な事項

（研究系）

第4条 研究所は、研究機能を高めるため、研究系を設置する。

2．第1項に規定する研究系は、次のように定める。

- (1) アジア地域研究系
- (2) 表象・文化研究系
- (3) 教育・生活研究系

3．研究系の設置および廃止は、研究所委員会（以下「委員会」という。）と教授会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

4．各研究系には、代表者を置く。

（所長）

第5条 研究所に、所長を置く。

2．所長は、研究所の業務を統括し、研究所を代表する。

3．所長の選任方法については、別に定める。

（委員会）

第6条 研究所に、企画・運営のために委員会を置く。

（委員会の構成）

第7条 委員会は、所長、研究系の代表者と本学専任教員の内から選ばれた他の2名で構成する。

2．委員の内2名は、学長と所長および研究系の代表者とで協議の上、候補者を選び、教授会の承認を得て学長が任命する。

3．委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。任期中に欠員が生じたときは、その後任者の任期は前任者の残任期間とする。

（委員会の審議事項）

第8条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画、研究および運営の基本方針に関する事項

(16) 1995年4月、この研究所規程の施行によって研究所が発足し、それとともなって1991年11月に施行された共同研究機構規程は廃止された。その後、本規程は2回改正されて現在に至っている。

- (2) 研究系の新設および廃止に関する事項
- (3) 予算申請原案の作成、予算の執行および決算に関する事項
- (4) 公報・紀要の編集、発行に関する事項
- (5) 研究所の施設および設備に関する事項
- (6) 学内外との共同研究等に関する事項
- (7) その他研究所に関する重要事項

(委員会の招集)

第9条 委員会は、所長が招集し主宰する。

(所員および特別研究員)

第10条 研究所に、所員若干名を置く。

2. 所員は、次の者をもってこれに当てる。

- (1) 研究所専任教員
- (2) 研究所兼任・兼任教員
- (3) 研究所助手

3. 所員に関する細目は、別に定める。

4. 研究所は、必要により特別研究員を置くことができる。

5. 特別研究員に関する細目は、別に定める。

(所員の任務)

第11条 研究所の所員は、研究、調査、教育その他研究の促進に必要な事業に従事する。

2. 教授会は、年次報告の他、必要があると認めるときは所員に対し、研究等に関する報告を求めることができる。

(研究所の事務)

第12条 研究所の事務を処理するため、事務職員を置く。

(経費)

第13条 研究所の経費は、和光大学の研究所予算、寄付金、研究補助金等の収入をもってこれにあてる。

2. 予算の執行に関する細目は、別に定める。

(改廃手続)

第14条 この規程の改廃は、委員会および教授会の承認を得て、学長がこれを行う。

付則

1. この規程は、平成7年4月1日から施行する。

2. 平成3年11月8日制定した和光大学共同研究機構規程は、これを廃止する。

和光大学共同研究機構規程 (1991年)¹⁷⁾

(名称)

第1条 本学に和光大学共同研究機構 (以下「研究機構」という。) を置く。

(目的)

第2条 研究機構は、学内で進められている研究活動・特に共同研究グループの運営母体として機能し、研究の活性化を計るとともに将来研究所として体制を整備するための作業を行うことを目的とする。

(事業)

¹⁷⁾ これまでの自然発生的な共同研究は、共同研究機構の発足、同規程の施行によって、いわば公的なものとなった。その後、1995年に本規程は廃止され、総合文化研究所規程が制定された。

第3条 研究機構は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 各共同研究グループおよび各教員の研究交流・援助。
- (2) 研究機構としての研究発表集会の開催。
- (3) 研究所としての体制をまとめるための調査・研究。
- (4) 研究機構の会報・紀要の発行。
- (5) その他、目的の達成に必要な事業の実施。

(委員会)

第4条 研究機構を運営するために委員会を置く。

2. 委員会は、委員長その他委員4名をもって構成する。
3. 委員長は、学長が指名し、教授会の承認を得たのち学長が任命する。
4. 委員の内2名は、学長が指名し、他の2名は共同研究グループ構成員の中から選出し、教授会の承認を得たのち学長が任命する。
5. 委員長および委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。任期中に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
6. 委員長は、委員会を招集・統括し、委員会の議長を兼ねる。
7. 委員会は、委員長その他委員2名以上の出席をもって成立する。
8. 委員会は、前条の事業を行うために必要な事項について審議する。
9. 委員会に関わる事務を遂行するため、事務職員若干名を置く。

(会計年度)

第5条 研究機構の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(経費)

第6条 研究機構の経費は、大学予算によって定められた経費、寄付金およびその他の収入による。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、各学部教授会の議を経なければならない。

付則

(この規程は平成3年11月8日から施行する。)

この規程は平成4年4月1日から施行する。